

臨調・行革粉碎! 三里塚ジェット闘争勝利!

動労「本部」革マルを手先きとしての 戦闘的国鉄労働運動解体攻撃をうちくだけ

三里塚・国鉄労働運動の全国的拡大がカギ

政府・国鉄当局は、この間「ヤミ・カラ」キャンペーンの展開、職場規律の厳正化、職場支配権の確立を強行しつつ徹底した合理化と国鉄労働運動解体攻撃を強めてきた。

そして、初めの六〇年度、職員三十五万人体制に「国鉄経営改善計画」を今日抜本的に「修正」してさらに合理化を強化しようとする策動を開始した。

われわれは、相次ぐ動労「本部」革マル反動分子の屈服と卒先協力という階級的裏切りを徹底的に弾劾しつつ国鉄労働運動の戦闘的再生に動労大改革を勝ちとり反撃に打ち上らなければならぬ。

国鉄経営改善計画の 全面見直し攻撃の策動

「国鉄再建」に国鉄労働運動解体攻撃を激化させつつ「経営改善計画」を推進してきた国鉄当局は今年に入つてこの「計画」の目標達成が絶望的になった」として新たな見直し策動を開始していることを最近のマスコミを通して明らかにしている。

- すなわち改善計画が破綻した最大の原因は
- (1) 運賃収入、とくに貨物の落ちこみが大きい。
 - (2) 従つて、六十年までの幹線の収支均衡を図ることはほぼ絶望的となった。
 - (3) そのために具体的には次の施策を実行する。
 - ① 新規採用をさらに三年間ストップする。
 - ② 退職奨励制度の導入。
 - ③ 職種間の横断人事の断行。
 - ④ 貨物・病院・バス部門・工場などの分離の促進など徹底した合理化。
 - ⑤ こうした施策をもつて六十年までの二年間で五万人から八万人の人員削減を行い六十年で二十九万人台を目指す。
- というさまざまの合理化を強行しようとしているのである。

本格化する国鉄労働 運動解体攻撃

国鉄当局は、「国鉄経営改善計画」を「あとのない再建計画」として五十六年度を初年度に六十年まで幹線の収支均衡を図ることを目的に今日まで外注化・能率向上など徹底した合理化を強行してきた。

そして、昨年一年間は、反動的な「ヤミ・カラ」キャンペーンをマスコミを総動員して展開しつつ職場規律の厳正化に既得権剥奪、国鉄労働運動解体攻撃を一挙に強めてきた。

日帝は、体制的危機の突破口を軍事大国化、改憲をもつて再び戦争と侵略への道を突き進もうとしている。この日帝支配階級の道はいま、国鉄労働運動の解体、三里塚勢力の根絶・一掃なくしてあり得ないという、未曾有の反動となつて襲いかかつてきている。

全労働者の敵に動労「本部」 革マル反動分子を一掃しよう!

このようにときに、職場規律の厳正をはじめブルトレ旅費返済・現協改悪・バス廃止など激しい政府・臨調・行革・国鉄当局の攻撃の前に動労「本部」革マル分子は完全に屈服し、むしろ「いまがチャンス」とばかりにこの攻撃と呼応して国労への敵対や、わが動労千葉解体攻撃を当局・権力と一体となつて策動し、その反労働者性・反動性をむきだしにしてきた。

そして、デッチあげタレコミで労働者を権力に売る「警察労働運動」、不屈に闘う職場の仲間を本社職員局に匿名でタレコミ、監査を呼びこむ「新悪慣行摘発運動」なるものを推進するといふ、第二鉄労ともいふべき卑劣な当局の手先になり下つている。

わが動労千葉が四年前に分離・独立をかけて激烈に闘い抜いてきた「動労本部」革マル追放・一掃・動労大改革・国鉄労働運動の戦闘的再生のストーリーガンはいまや全国鉄労働者の共通のストーリーとなつてきている。

機は熟した! いまこそ臨調の先兵に当局の手先き警察労働運動の動労「本部」革マル追放・一掃へ!

訂正と おわび

『日刊』第一二六六号に、日付の誤りがありました。

- ・ 見出しに「2/15」は「2/5」の誤りです。
- ・ リードに「二月十五日一三時より」は「二月五日一三時」の誤りです。

おわびして訂正します。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!